

観光フォーラム

コロナ禍における公開講座のあり方

～ 2020 年度和歌山大学「観光・地域づくり」講座を事例に～

Open lecture during the COVID-19

-The case of Wakayama University open lecture “KANKO CHIKI ZUKURI (Tourism and Regional Development) 2020”-

金岡 純代¹、出口 竜也²

Sumiyo Kanaoka, Tatsuya Deguchi

1 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス特任助教

2 和歌山大学観光学部教授

キーワード：公開講座、インターネット配信、新型コロナウイルス感染症

Key Words：Open lecture, Web broadcast, COVID-19

I. はじめに

2008 年（以下、年号は西暦にて表記）、和歌山大学は観光学部の新設を機に公開講座「観光カリスマ講座」を開講した。以来、2016 年度までは「和歌山県における観光振興に向けた相互連携協定」に基づき和歌山市内各所を会場に実施してきたが、2017 年度以降は会場を本学 T101 号教室に移すとともに、引き続き和歌山県から協働事業負担金の提供を受けて開講してきた。

「観光カリスマ講座」の名称は、当初観光庁選定の「観光カリスマ」による講演を中心にすえていたことに由来している。だが、2013 年度以降は招聘実績がない等の理由から、講座の趣旨を維持しつつ、実状に即した名称に変更することとし、2020 年度より「和歌山大学『観光・地域づくり』講座」として開講することになった。

2020 年 1 月、国内で最初の新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 と表記）の発症が確認され（厚生労働省 2020）、その感染は徐々に拡大した。2020 年 2 月 27 日に開催された第 15 回新型コロナウイルス感染症対策本部（首相官邸、2020）において、全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象に 3 月 2 日から春休みまでの 2 週間の臨時休業を行うよう要請がなされた。その際、対象外とされたものの、多くの大学では学位授与式・入学式などの式典が中止またはオンライン中継となり、授業形態も対面から遠隔授業へと大きく様変わりした。

本学においても、緊急事態宣言の発出に伴って 2020 年度の授業開始がゴールデンウィーク明けまで延期されたことから、「観光・地域づくり」講座も新年度開始早々からその開催の

可否が大きな焦点となった。後期に予定されていたとは言え、COVID-19 に関わる情報の範囲では安全な状態での対面形式による開講が可能となる見込みは 2020 年 4 月の時点では全く立っておらず、学部に設置されている事業連携委員会を中心に慎重な議論・検討が重ねられた。

また、観光業においてもその影響は大きく、特に 2020 年 2 月以降は国際航空路線が徐々に減便され、訪日外国人旅行客数は、2020 年 2 月には前年比 58.3% 減、翌 3 月には 93.0% 減、以降は 11 月まで 97～99% 減とほぼ消滅に近い状況となっている（日本政府観光局、2020）。加えて日本人国内旅行消費額（観光庁、2020a）も、2020 年 1-3 月期前年比 21.7% 減、4-6 月期は 83.2% 減、7-9 月期は 56.3% 減と若干持ち直したものの、依然として厳しい状況は続いている。

このように、観光業をはじめ COVID-19 の影響は全国・全産業に及んでおり、各方面でそれぞれに対策が求められる状況において、メディアはその最前線に位置付く観光業界に対して非常に高い関心を持って報道を続けている。しかし、その内容は偏ったものも少なくなく、「今、観光業界ではどのような対策を実施しているのか」、「観光業界ではアフターコロナをどう考えているのか」など、必ずしもメディアで正確に報道されているとは言えない現場の最新の状況を安全が確保された形式で社会に向けて発信することが肝要であるとの考えに至り、2020 年 6 月に開催された教授会において本学部初のオンライン方式による公開講座の開催が正式に決定した。

本フォーラムは、本学部初のオンライン公開講座の準備過程と当日の運営等についての記録が今後同様のオンラインイベントを開催する際の参考になると考え、公開するものである。

II. 事前準備

1. 和歌山県との共催

2019 年度まで実施されてきた「観光カリスマ講座」は、本学および和歌山市内各所を会場に開講してきたため、一般受講者の多くは和歌山県民であり、他県からの参加者も近隣府県にほぼ限られていた。しかし、オンライン形式で実施することにより全国各地からの受講が可能となることから、和歌山県内からの申し込み比率が低下することが懸念された。そこで、申し込みの際に和歌山県民枠の確保をすることと、和歌山県内で活動している受講生にターゲットを絞った講演内容を講師に依頼することで、継続して和歌山県との共催による経済的支援を可能とした。

全国からの申し込みが予想されたため、受講登録の必須項目に居住する「都道府県」を加え、都道府県ごとの人数を把握することとした。受講登録は、ある一定数まで申込と同時に自動承認するよう設定し、一定数を超えた時点で和歌山県在住者の登録が少ない場合は、自動から手動承認に切り替え、和歌山県民を優先承認するよう準備した。結果的として登録上限数に達しなかったため、すべての登録申込が受理された。

2. 観光庁「中核人材育成講座」の公認

2016～2017 年度の 2 年間にわたり、観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に本学が採択されたことをきっかけに、「観光カリスマ講座」は地域の観光産業を牽引する人材の育成を目指す講座としての性格も併せ持つようになった。そして、2018 年度以降は観光庁の「中核人材育成講座」としても実施されるようになり、2020 年度には観光庁で新たに作成したロゴマークの使用が認められた。本ロゴマークをパンフレット等に掲載することで、「観光・地域づくり講座」が観光庁と連携する講座であることを視覚的に明示して広報・受講者募集を行うことができるようになった。



Japan. Tourism Education Program

図1 観光庁公認ロゴマーク

(出所) 観光庁 (2020b)

3. オンラインセミナーのイメージづくり

2020 年 4 月 7 日、緊急事態宣言が 7 都府県を対象に発出され、その後全国へと拡大する中、大学・企業など多くの団体が「オンラインセミナー」を開催するようになった。本学においても、対面授業からオンライン授業へと切り替わり、TEAMS や ZOOM など、テレビ会議のように映像と音声を使って、離れた場所にいる複数の相手とのコミュニケーションを可能にするツールが使われ始めるようになった。「観光・地域づくり講座」をオンライン形式で実施するにあたり、目指すべき「オンライン

セミナー」のイメージづくりを行うことから始めた。

まずは、受講者が「どのように見て、聞いているのか」という観点から、筆者自ら観光庁 (2020c)、明海大学 (2020) や関西国際大学 (2020) などの中核人材育成講座実施大学、および株式会社エイチ・アイ・エス (2020)、株式会社美ら地球 (2020) など観光関連企業が主催するオンラインセミナーに参加し、申込み～受講～講義後フォロー (アンケート) までの仕組みを実際に体験し、受講者目線でそのイメージを構築した。また、本学教職員とのヒアリング、意見交換を行うことで本学部の公開講座の運営方法を固めていった。

なお、実際のオンラインセミナー運営については、本学部に先行して本学国際観光光学研究センターがオンライン公開セミナー (和歌山大学国際観光光学研究センター, 2020) を開催しており、その運営方法を参考に ZOOM のウェビナー機能を活用することとした。

4. 講師選定

例年通り、講座の回数は全 5 回を維持しつつ、オンライン運営の特色・メリットを最大限に反映した講師を選定することとした。遠隔からの中継も可能であることから、遠方に在住する講師や、複数の講師によるセッションなど、これまでにない講義内容の企画を試みた。全 5 回のうち 3 回は講師を大学に招いての講義、2 回は遠隔からの講義とし、回毎に中継方式を変更した。

5. 時間枠設定

例年通り平日開催としたが、本学において 2020 年度からの 2 学期クォーター制が導入されたことに伴い演習科目の多くが 5 時限に設定されたことや、一般受講者が自宅等で視聴されることを想定し、講座の開始時間を 19 時とした。講義時間は、受講者の受信状況 (PC 画面を通しての視覚的負担) や集中力維持を考慮し、昨年までの「90 分」から「60 分」へ縮小し、19 時から 20 時までとした。各回のプログラムは表 1 の通りである。

III. 当日の運営

講座の配信は、講師を大学に招いてモデレーターと対面する形での中継の方法か、もしくは講師がオンラインで講義を行う遠隔中継の方法が採用された。

1. 大学からの中継 (観光学部長室のスタジオ化)

COVID-19 感染拡大対策のため、アクリル板の設置や部屋の換気等に配慮し、講師・モデレーター・パネリストおよび運営スタッフの座席位置を決定した。テレビ局のスタジオをイメージし、画面は 2 台のカメラによる画像をスイッチャーで切り替えて投影できるようにしつつ、音声は共有マイクを置いて全員の声を集音することとした。なお、インターネットへの接続について

表 1 2020 年度和歌山大学「観光・地域づくり」講座 プログラム

回	開催日	テーマ	講義場所
		講師（所属）	
1	10月16日 (金)	コロナ禍における観光政策とこれからの観光地域づくり 檜垣 敏氏（観光庁 観光地域振興課 広域連携推進室長 兼 観光地域づくり法人支援室長）	大学
2	10月29日 (木)	コロナに負けるな！温泉女将の生き残り大作戦 小幡 美香氏（さぎの湯温泉 竹葉 女将） 杉本 夏子氏（温泉旅館 矢野 女将）	遠隔
3	11月12日 (木)	つながりづくりと観光地づくり ～熱海市や鶴岡市の観光振興を事例に DMO を考える～ 木村 ともえ氏 （㈱ジェイアール東日本企画 ソーシャルビジネス開発局 部長代理）	大学
4	11月19日 (木)	「小さな自然を観る旅」による滞在型観光地への転換 河井 大輔氏 （NPO 法人 奥入瀬自然観光資源研究会 理事長）	遠隔
5	12月3日 (木)	空港型地方創生～民営化空港による地域経済の活性化～ 森重 良太氏 （㈱南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室 室長）	大学

は、配信の中心となるホスト PC は安定した回線状態確保のため有線 LAN ケーブルを使用し、パネリスト等の PC は学内無線 Wi-Fi を使用した。学部長室の配置図は図2の通りである。

(1) スイッチャー

ホスト PC にスイッチャーを接続し、そのスイッチャーにビデオカメラ 2 台と講座案内 PPT の表示用の PC 1 台、計 3 台の機器を接続することで、スイッチャーのボタン操作のみで簡単に円滑に画面を切り替えることが可能な設定とした。

(2) 共有スピーカーマイク

オンライン会議等を実施する際、一会場で複数の PC を用いると各 PC のスピーカーおよびマイクの設定によりハウリングが発生する可能性がある。本講座では、ハウリングを避けるため、ホスト PC に共有マイク 1 個を接続し、部屋全体の音声を集音することとした。このことで、ホスト以外の PC はスピーカーとマイクをオフ設定のまま講義を進行することが可能となり、パネリストによるマイクの ON/OFF 作業が軽減された。

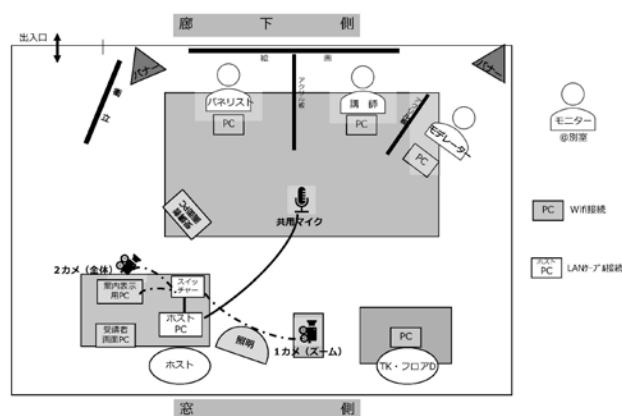


図2 学部長室配置図

(出所) 筆者作成



図3 学部長室スタジオ風景

(出所) 筆者撮影



図4 第1回（10月18日）講義風景

(出所) 筆者撮影



図5 第3回（11月12日）講義風景
（出所）筆者撮影



図6 第5回（12月3日）講義風景
（出所）筆者撮影

2. 遠隔中継（事前オンライン打合せ）

第2回講義は、2名の講師がそれぞれ北海道と島根県からオンラインで参加した。モデレーターをつとめる学部教員2名は学部長室から参加し、画面4分割によるディスカッションを中心に展開した。第4回講義では、講師は北海道からモデレーターをつとめる学部教員は学部長室から参加し、画面2分割で講義を中心に進行した。ビデオは各パネリストのノートPCのカメラ画像を使用し、モデレーター教員の音声は学部中継と同様に共通スピーカーマイクを使用し、講師と教員間の対話でのタイムラグが発生しないことを確認しながら講義を進めた。

遠隔中継の講師には、事前打ち合わせの際に可能な限り本番と同じオンライン環境で参加してもらい、画像・音声の状況を確認した。また、画面4分割・2分割をバランスよく配置するため、各自のカメラ位置（距離・高さ）も相互に確認を行った。講義資料の共有は各講師が行うことを前提に進行するが、資料は事前にホスト側にも送付してもらい、万一の場合はホストPCでも共有できるように準備した。



図7 第2回（10月29日）講義風景
（出所）筆者撮影



図8 第4回（11月19日）講義風景
（出所）筆者撮影

3. 双方向

不特定多数の受講者を対象としたオンライン講座では、受講者のリアクションを見ながら講義を行うことは難しく、一般的にはZOOMウェビナーではQ&Aやチャット機能が活用されている。本講座では、講義の進行および受講者全員の共有を優先してQ&Aは匿名での質問を可とし、回答済みの質問のみ閲覧可の設定を行った。また、チャットの共有はパネリストのみ可とし、受講者が講義内容に集中できるように設定した。

また、第2回講義では、「投票」機能を使って受講者のアンケートを実施し、その結果を講義内で公開することでディスカッションの内容に対する関心を高める効果を狙った。

4. 工夫した点

すべての回において、モニター担当スタッフ1名をホストの発信場所である「学部長室」とは別室に配置し、当日の講座開始前の準備段階で映像・音声の受信状態を確認し、各パネリストの声の調子や画面の明るさなどの微調整を行った。講座配信中、担当スタッフは受講者画面をモニターし、不具合が発生した場合にはパネリスト共有のチャットで即時に対応できるよう連絡体制を整えた。

なお、ZOOMウェビナー機能では、受講者が視聴している画面とパネリスト自身のPC画面が異なっているため、大学からの中継の際は受講者モニターPCを設置し、「現在どのような画面で配信されているのか」をパネリスト自身が確認できるようにした。また、事前に作成したタイムスケジュールに受講者画面の画像を加えることで、講義進行のイメージをよりわかりや

すく講師に伝えるように工夫した。

Ⅳ. 受講実績

これまでの対面形式の公開講座では会場までの移動距離・時間の観点から、和歌山県および近隣府県に限られ、2019年度の一般受講者は関西圏6府県からのみの参加であったのに対し、初めてのオンライン形式での実施となった2020年度は全国25都道府県から受講登録があった。以下、参加受講実績とアンケート結果を記載する。

1. 受講登録数と受講者数

受講登録者数のべ658名に対し、実際の受講者数はのべ397名であり、平均参加率は60.2%であった。先述の通り、本講座は観光庁「中核人材育成講座」にも認定されており、当該ページでの開催通知掲載、および中核人材育成事業の参画大学への周知を依頼した。また関西圏外の人々にも本学部の学びを伝える良い機会ととらえ、これまで本学部と関わり

のある観光関連事業者を対象に開催案内メールを送付するなど、全国を対象に広報活動を行った。

2. 映像・音声の状況

講義の受信状況について、以下の4つの選択肢を設定し、全5回においてアンケートを実施した。第1回は「音声・画像ともほぼ良好」の回答が65%で、受講者の35%がなんらかの不具合を感じながら視聴していることがわかった。発信側の改善策として、パネリストにはよりゆっくりと、文節の間を開け、文末をはっきりと意識して発言するように依頼した。その結果、第2回目以降は9割の回答が「ほぼ良好」で、「音声・画像とも悪かった」との回答はゼロだった。

- ① 音声・画像ともほぼ良好
- ② 音声は聞き取れるが、画像が乱れた
- ③ 音声が聞きづらいが、画像は鮮明だった
- ④ 音声・画像とも悪かった

表2 2020年度 都道府県別のべ人数

都道府県名	受講登録数	受講者数	参加率	都道府県名	受講登録数	受講者数	参加率
和歌山	325	200	61.5%	神奈川	13	12	92.3%
大阪	100	58	58.0%	新潟	5	0	0.0%
京都	15	8	53.3%	石川	1	1	100.0%
滋賀	4	3	75.0%	福井	6	3	50.0%
兵庫	33	18	54.5%	愛知	5	4	80.0%
奈良	13	2	15.4%	徳島	18	9	50.0%
北海道	12	6	50.0%	愛媛	5	5	100.0%
青森	2	2	100.0%	岡山	4	1	25.0%
宮城	3	3	100.0%	広島	1	1	100.0%
茨城	5	2	40.0%	島根	1	1	100.0%
栃木	1	1	100.0%	長崎	7	5	71.4%
東京	66	44	66.7%	熊本	1	0	0.0%
埼玉	12	8	66.7%	合計	658	397	60.2%

(出所) 筆者作成

表3 2019年度都道府県別一般受講登録数（和歌山大学学生・教職員を除く）

府県名	受講登録数
和歌山	48
大阪	12
兵庫	4
京都	1
滋賀	2
奈良	1
合計	68

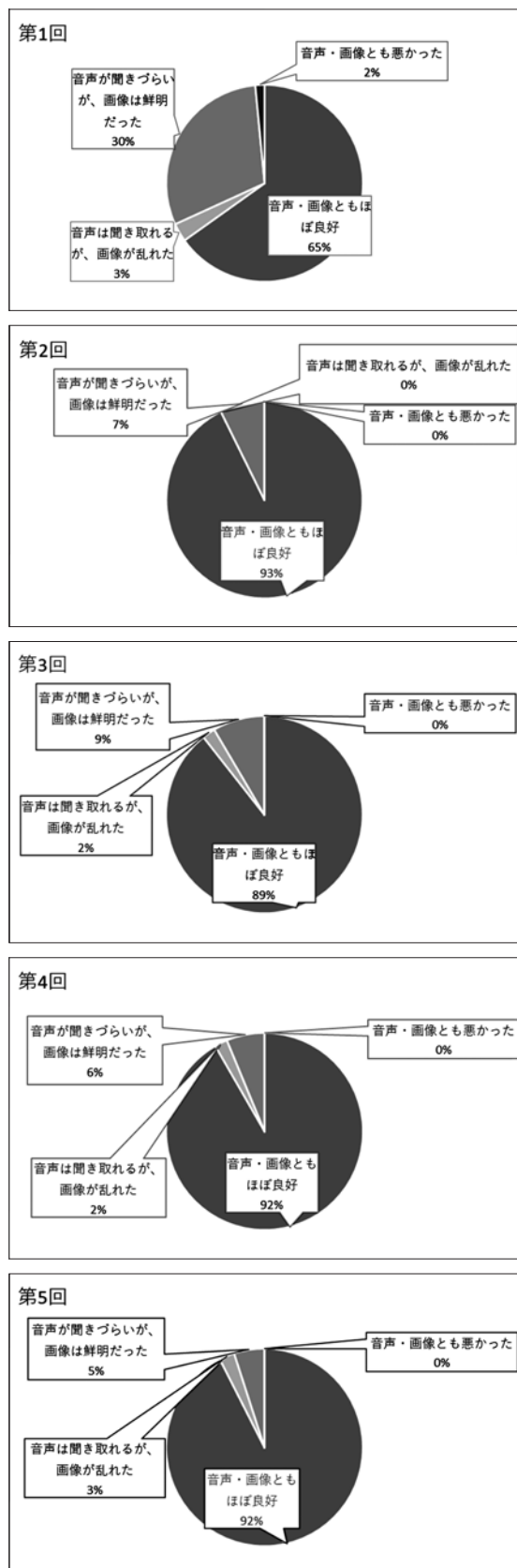


図9 映像・音声の状況
(出所) アンケートより筆者作成

3. 2019 年度（対面講座）との比較

本講座と2019年度の公開講座「観光カリスマ講座（全5回）」の実績・アンケート結果を比較してみた。結果は下記の通りである。

(1) 受講実績数

2020年度は各回ごとの受講登録が可能な設定としたのに対し、2019年度は講座（全5回）一括での申し込みとし、開講後も随時受講登録を認めていたため、一般および履修学生を含めた登録数は当初75名であったが、最終的に87名（一般受講者68名、学部生19名）になった。なお、本学学生および教職員は、2019年度の対面講座では事前登録なしでの当日参加が可能であったが、2020年度はすべて事前登録によってのみオンライン受講可能な仕組みとなっている。その結果、見かけ上の登録者数は大幅に増加したが、受講者実数自体にそれほど伸びは見られなかった。参加率はオンライン・対面ともに第1回が高く、回が進むにつれ減少傾向となり、平均参加率は対面と比較してオンラインでは3%ほど低かった。

表4 受講実績数

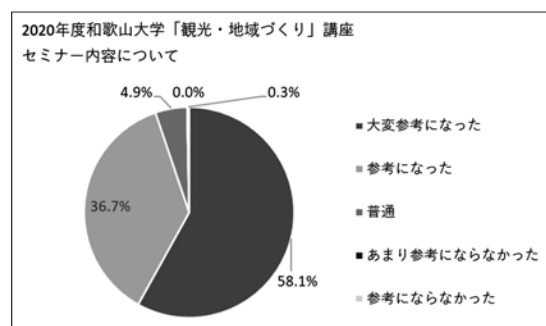
	2020 年度			2019 年度		
	登録数	受講数	参加率	登録数 ^{*1}	受講数 ^{*2}	参加率
第1回	143	102	71.3%	75	55 (77)	73.3%
第2回	120	73	60.8%	84	53 (70)	63.1%
第3回	133	75	56.4%	85	52 (68)	61.2%
第4回	130	76	58.5%	87	52 (68)	59.8%
第5回	132	71	53.8%	87	51 (76)	58.6%
合計	658	397	60.2%	418	263 (359)	63.2%

^{*1}2019年度登録数は、一般受講申込者と授業科目「観光カリスマ論」の履修学生の合計

^{*2}登録済みの受講者数を表記。() 内数字は、当日参加の本学関係者を含む受講者数
(出所) 筆者作成

(2) 講座内容に関する満足度

2020年度の設問では「参考になったか?」と表現しているので、正確には「満足度」ではないが、受講者の感想と捉え、以下の通り比較してみた。オンライン・対面講座共に受講者の9割が「満足」「参考になった」との結果であった。



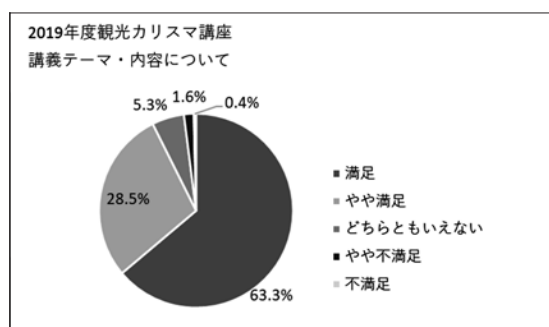


図 10 講義後アンケート（セミナー内容について）
（出所）筆者作成

（3）講義のわかりやすさ（視覚・聴覚）

2020年度のオンラインでは「音声・画像の受信状況」、2019年度の対面では「話し方・スライド」に関する項目を活用して視覚・聴覚からのわかりやすさを比較してみた。オンラインでは「音声・映像共に良好」回答が86.3%で、対面講義の「満足」「やや満足」の合計89.5%とほぼ同様であった。

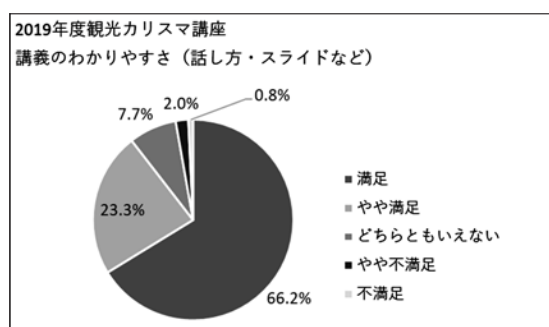
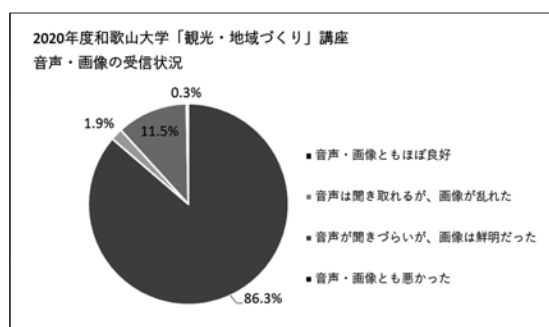


図 11 講義後アンケート（講義のわかりやすさ）
（出所）筆者作成

V. まとめ

「観光・地域づくり講座」は、国立大学で唯一観光学部を擁する本学が観光学を学ぶ学生はもちろん、観光関連業界、自治体、関連省庁をはじめとした一般社会に向けて有益な情報を提供することを主な目的としたものである。これはCOVID-19の影響下においてもいささかも変わるものではないとの結論に至り、2020年度はオンライン形式による公開講座の準備に着手した。そして、無事全5回の講座を開講するこ

とができた。アンケート結果を検討した限りにおいては、昨年度と比較して講義内容の満足度やわかりやすさなどに大差はなく、受講者にとっては対面方式とほぼ遜色のない水準で講座を受講することができたのではと判断してよいと思われる。また、「観光カリスマ講座」から継続して参加された受講者からは、「大学までの移動時間が節約できてよかった」「今回がきっかけで『オンライン（ZOOM）』を活用することができた。自分にとってはコロナ禍で唯一のメリットだ」等のコメントが寄せられた。他方、対面形式の講座では配布していた「講義資料」については、著作権上の課題を考慮してデータの配布を見送ったため、一部の受講者から不満のコメントが見られた。

2020年は授業や会議が日常的にオンラインで行われ、遠い場所にいる複数の人々との同時コミュニケーションが身近なものになった1年であった。その反面、リアルに人と会い、対話し、その場所を訪れることが貴重な機会であることを考えさせられる1年でもあった。COVID-19感染状況の収束後の大学は、対面授業を再開させる方向に進むであろう。しかし、同時にオンラインにはオンラインの利点があることも多くの人々によって共有されたと言ってよいであろう。特に、オンライン形式の公開講座は講師も受講者も場所の移動を伴わずに参加できるという大きな利点があることから、COVID-19収束後も引き続き多くの公開講座においてオンライン形式による開催が、あるいは対面方式とのハイブリッドによる開催が行われるであろうことが想像される。したがって、オンライン形式の公開講座やセミナー等を今後円滑に実施する際に、本講座の事例が活かされるよう共有しておきたい。

謝辞

本講座の運営、配信にあたり、6名の講師をはじめ和歌山大学観光学部、観光実践教育サポートオフィスおよび国際観光学研究センターの皆様には多大なるご協力とご助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 株式会社美ら地球(2020)「対談シリーズ『サステイナブルな田舎の作り方』 vol. 4『地方創生×観光立国を考える』」、最終閲覧日2021年1月11日、https://zoom.us/webinar/register/WN_KAZdmMqvRB6T6c_6lkZxpA
- 株式会社エイチ・アイ・エス(2020)、「ウィズ・アフターコロナの課題解決に Zoom 活用術 / オンライン視察のご紹介」、最終閲覧日2021年1月11日、<https://www.his-j.com/corp/seminar/20200618.html>
- 観光庁(2020a)「旅行・観光消費動向調査」2020年7-9月期、最終閲覧日2021年1月11日、<https://www.mlit.go.jp/common/001372803.pdf>
- 観光庁(2020b)「地域の観光産業を担う中核人材育成講座について」、最終閲覧日2021年1月12日、<https://www.mlit.go.jp/kankochou/shisaku/jinzai/ikusei-kouza.html>
- 観光庁(2020c)「『日米ホスピタリティ・マネジメントウェビナー 日本の観光業界のV字回復・再生に向けて』の開催について」、最終閲覧日

2021 年 1 月 11 日、https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05_000311.html

関西国際大学 (2020) 「ツーリズムプロデューサー養成塾 (プレ講座・WEB セミナー)」、最終閲覧日 2021 年 1 月 11 日、<https://www.kuins.ac.jp/movie/tourism.html>

厚生労働省 (2020) 新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者の発生について (1 例目)、最終閲覧日 2021 年 1 月 12 日、https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08906.html

明海大学 (2020) 「中核人材育成プログラムオンラインセミナーの開催について」、最終閲覧日 2021 年 1 月 11 日、https://www.meikai.ac.jp/news/post_197.html

日本政府観光局 (2020) 「2020 年訪日外客数 (総数)」、最終閲覧日 2021 年 1 月 11 日、https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_visitor_arrivals.pdf

首相官邸 (2020)、新型コロナウイルス感染症対策本部 (第 15 回)、最終閲覧日 2021 年 1 月 12 日、https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202002/27corona.html

和歌山大学国際観光学研究センター (2020) 「7/22 (水) 開催!オンラインセミナー 「COVID: Travel and Tourism」」、最終閲覧日 2021 年 1 月 11 日、<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2020071400040/>

受理日 2021 年 1 月 22 日